

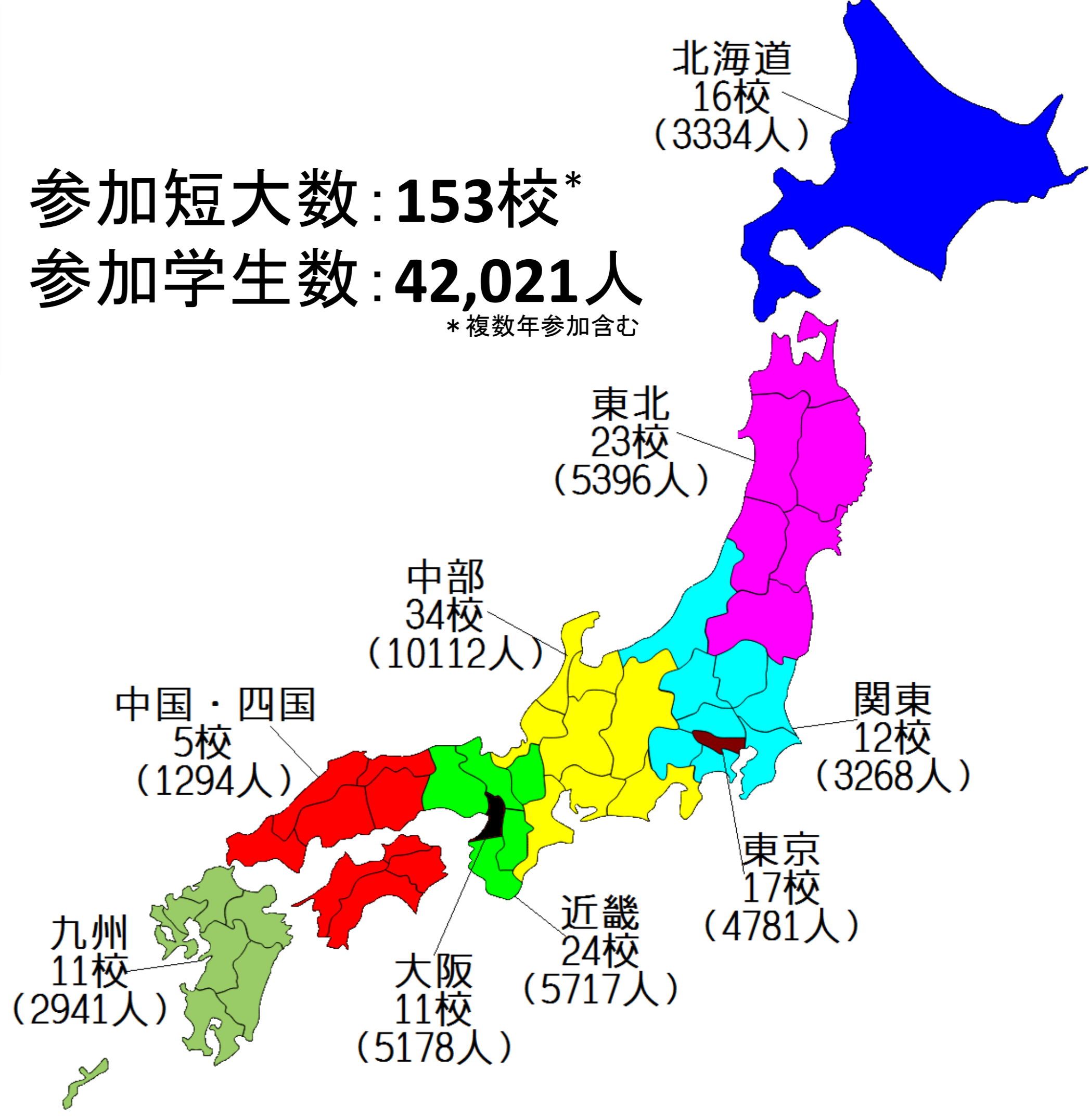
短大生調査を用いた地域別ベンチマーク指標の開発

Developing regional benchmark indicators on the Japanese Junior College Student Survey (JJCSS)

塚 完*・山崎 慎一**・黄 海玉(非会員)** *日本私立学校振興・共済事業団**桜美林大学***短期大学基準協会

研究目的

- 各短大の自己点検・評価を支える地域別ベンチマーク指標の開発
- 短大の地域差と特色の探索
- 短期高等教育の再定義と地方創生の検討



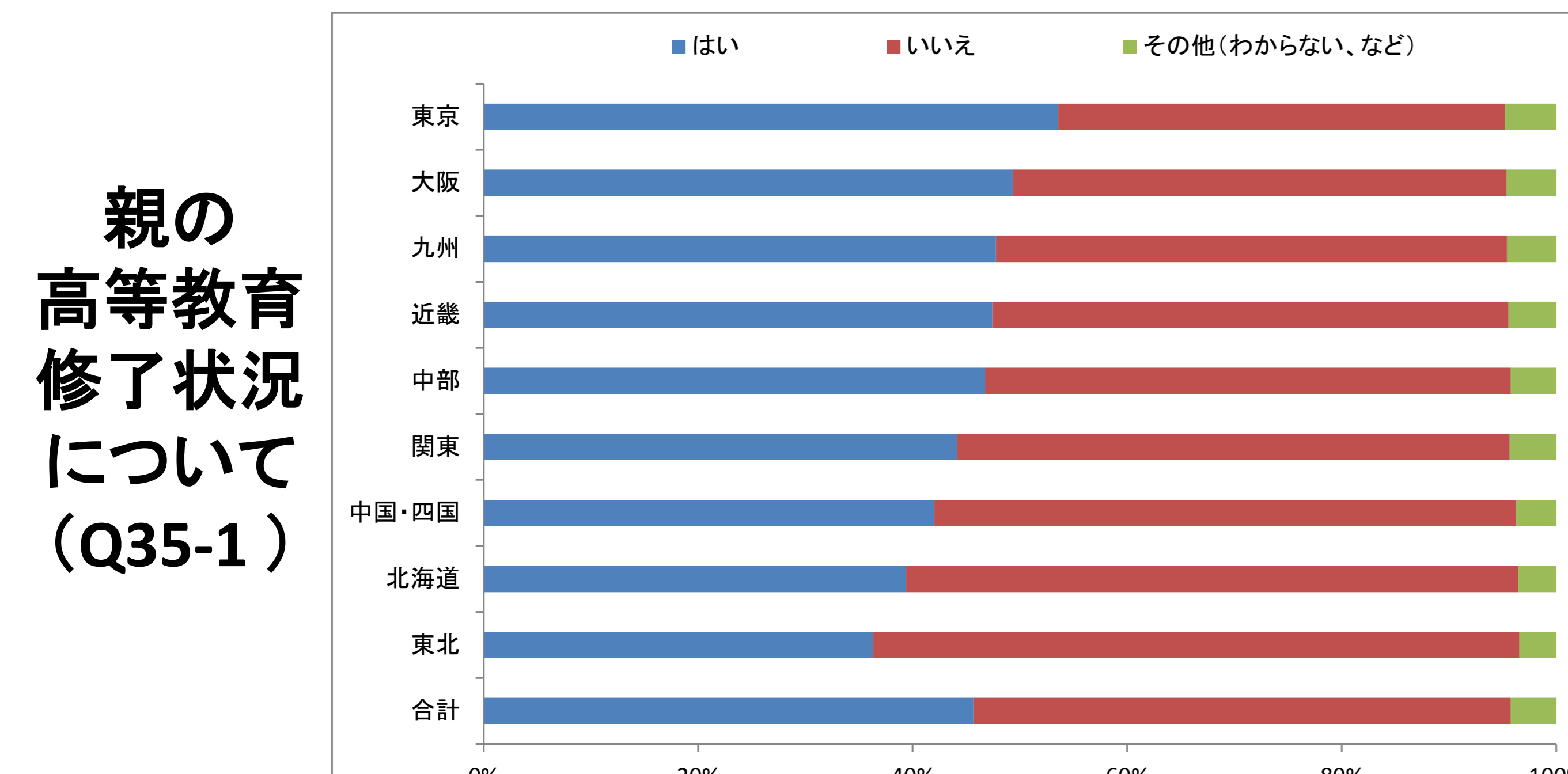
地域	JJCSS 2009		JJCSS 2010		JJCSS 2011		JJCSS 2012		JJCSS 2013		合計		学校基本調査(H27) (参考)	
	学生数	短大数	学生数	短大数	学生数	短大数	学生数	短大数	学生数	短大数	学生数	短大数	学生数	短大数
北海道	1012	5	0	0	627	3	903	4	792	4	3334	16	5380	17
東北	935	4	1754	6	634	3	1294	6	779	4	5396	23	8903	27
関東	636	2	498	2	439	2	537	2	1158	4	3268	12	22747	64
東京	106	1	592	2	1440	5	615	3	2028	6	4781	17	15760	39
中部	1764	7	1324	4	2312	9	2526	7	2186	7	10112	34	24549	59
近畿	872	5	409	3	2078	7	988	4	1370	5	5717	24	14634	39
大阪	704	2	1515	3	1566	3	12	1	1381	2	5178	11	11711	26
中国・四国	333	2	878	2	0	0	0	0	83	1	1294	5	11829	35
九州	857	2	398	1	541	2	227	2	918	4	2941	11	17168	40
合計	7219	30	7368	23	9637	34	7102	29	10695	37	42021	153	132681	346

短大生調査(JJCSS)参加校と学生数(調査対象者数)の地域別分布(2009~2013年)

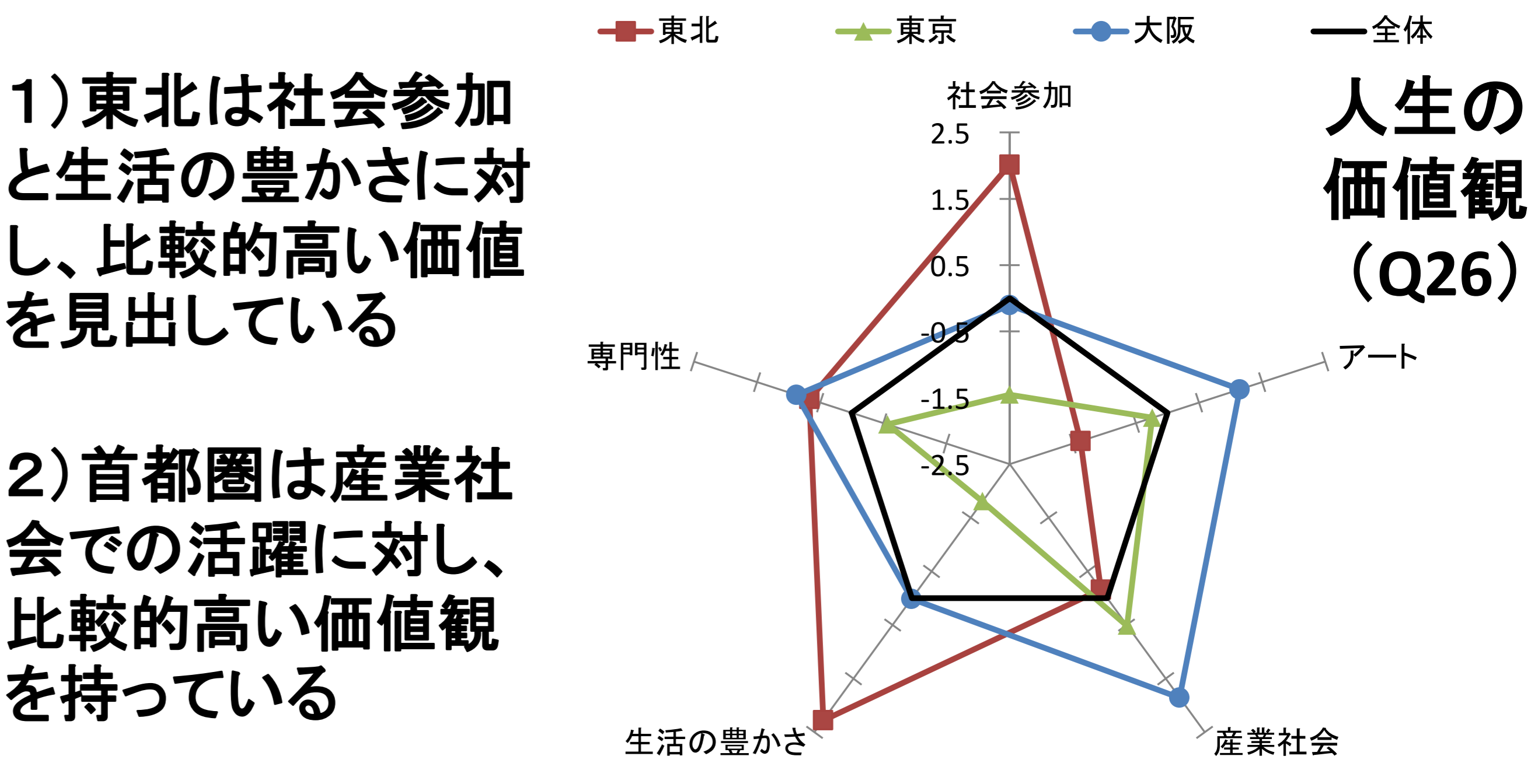
近年の短大関連の政策

- 「我が国の高等教育の将来像」(H.17)
- 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」(H.24)
- 「短期大学の今後の在り方について(審議まとめ)」(H.26)

- 期待
- 専門職業人材の養成
 - 地域コミュニティの人材養成
 - 生涯学習機能の充実
 - 高等教育機関のファーストステージ



- 1) 首都圏は両親のいずれかあるいは双方が高等教育修了者である割合が高い
- 2) 東北ははじめ地方ではその割合が低い



Q23.学修成果(5ヵ年) 地域間比較とベンチマーク比較例

① [地域間比較] [東北]>>><他地域>
「対人コミュニケーション」「汎用的技能」「社会問題の理解」

② [B短大ベンチマーク] 『B短大』>>><全国>,『東北』
「対人コミュニケーション」「多文化理解」「汎用的技能」
※「社会問題の理解」は『B短大』<『東北』

Q12.進学理由(5ヵ年) 地域間比較とベンチマーク比較例

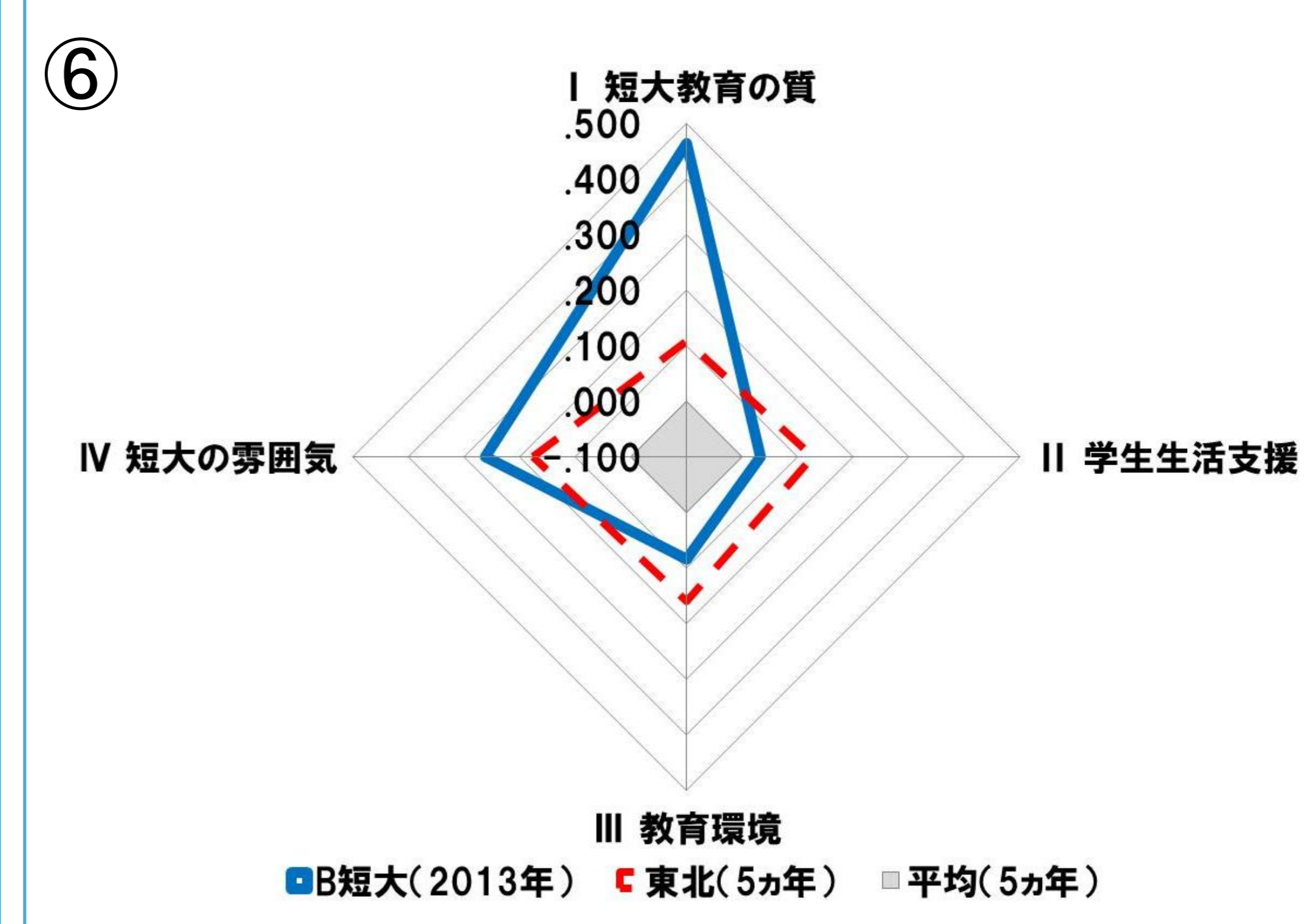
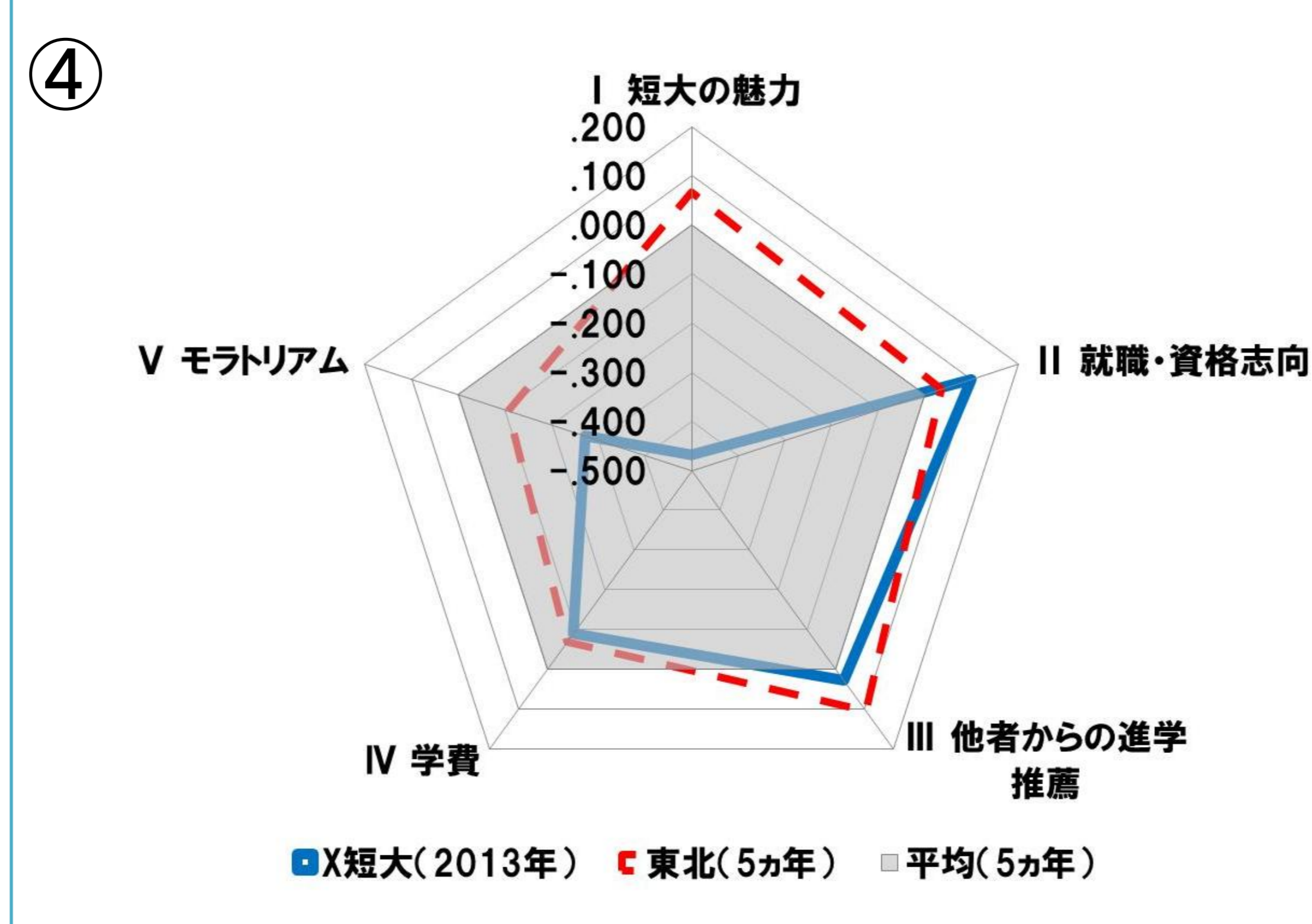
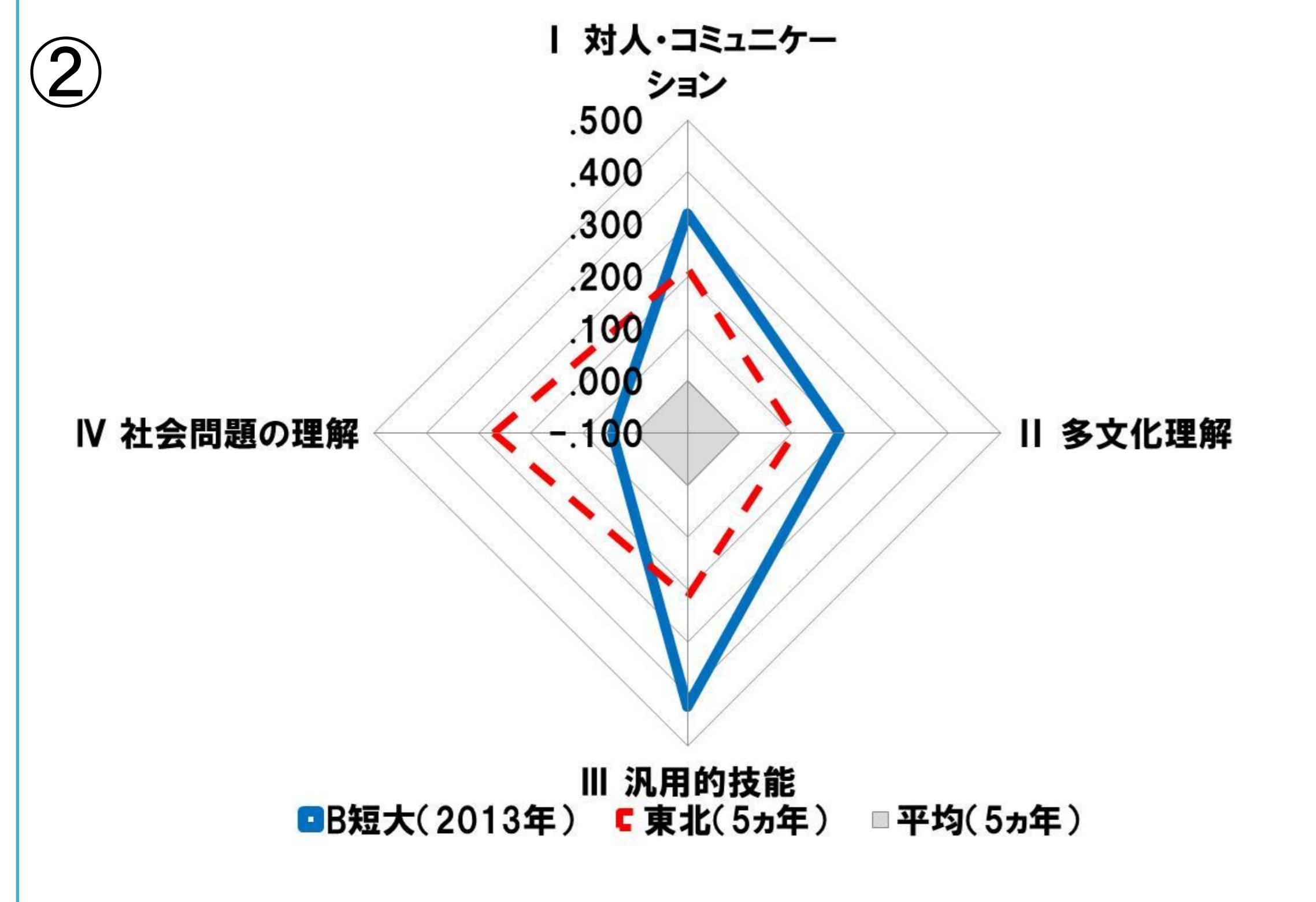
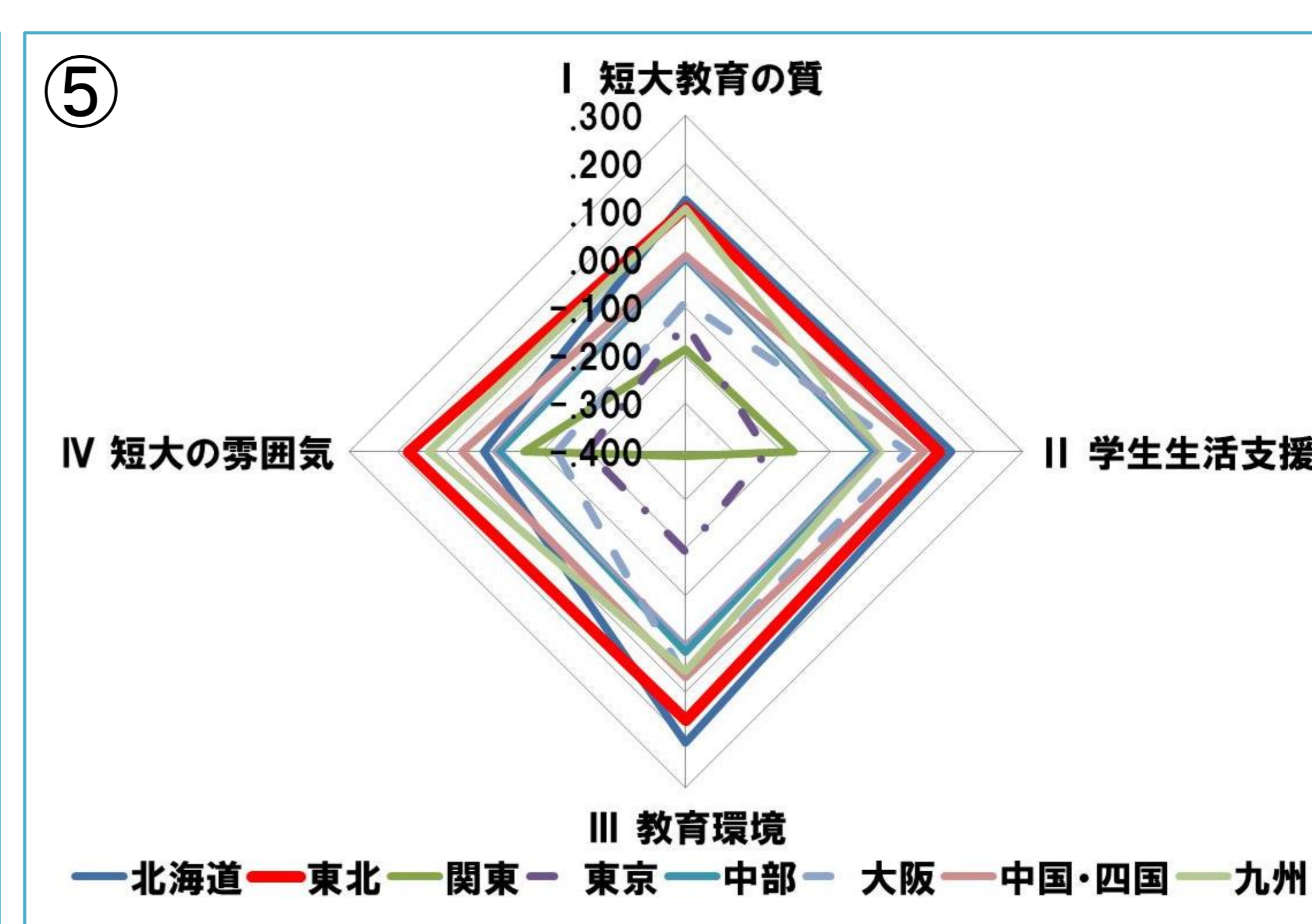
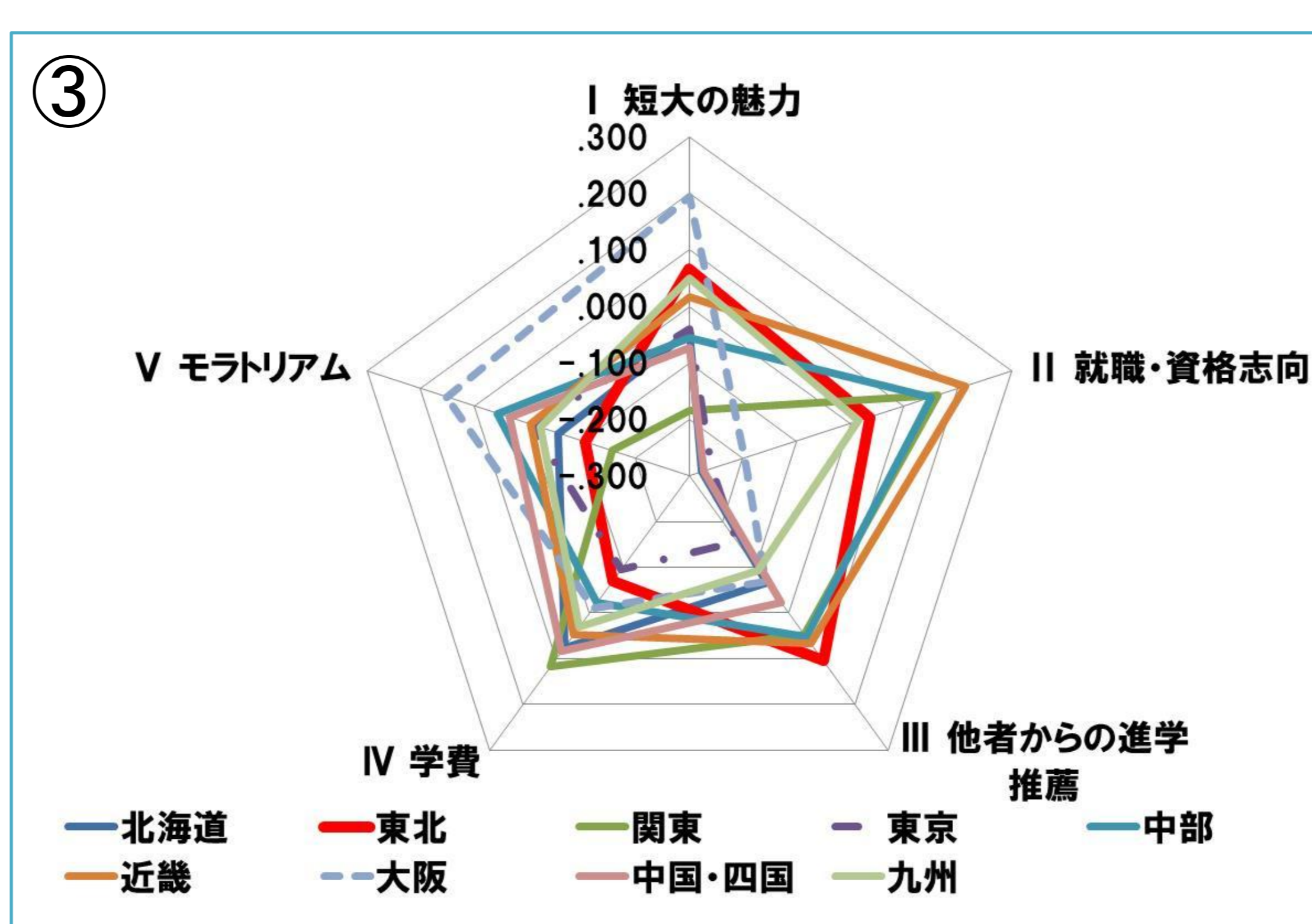
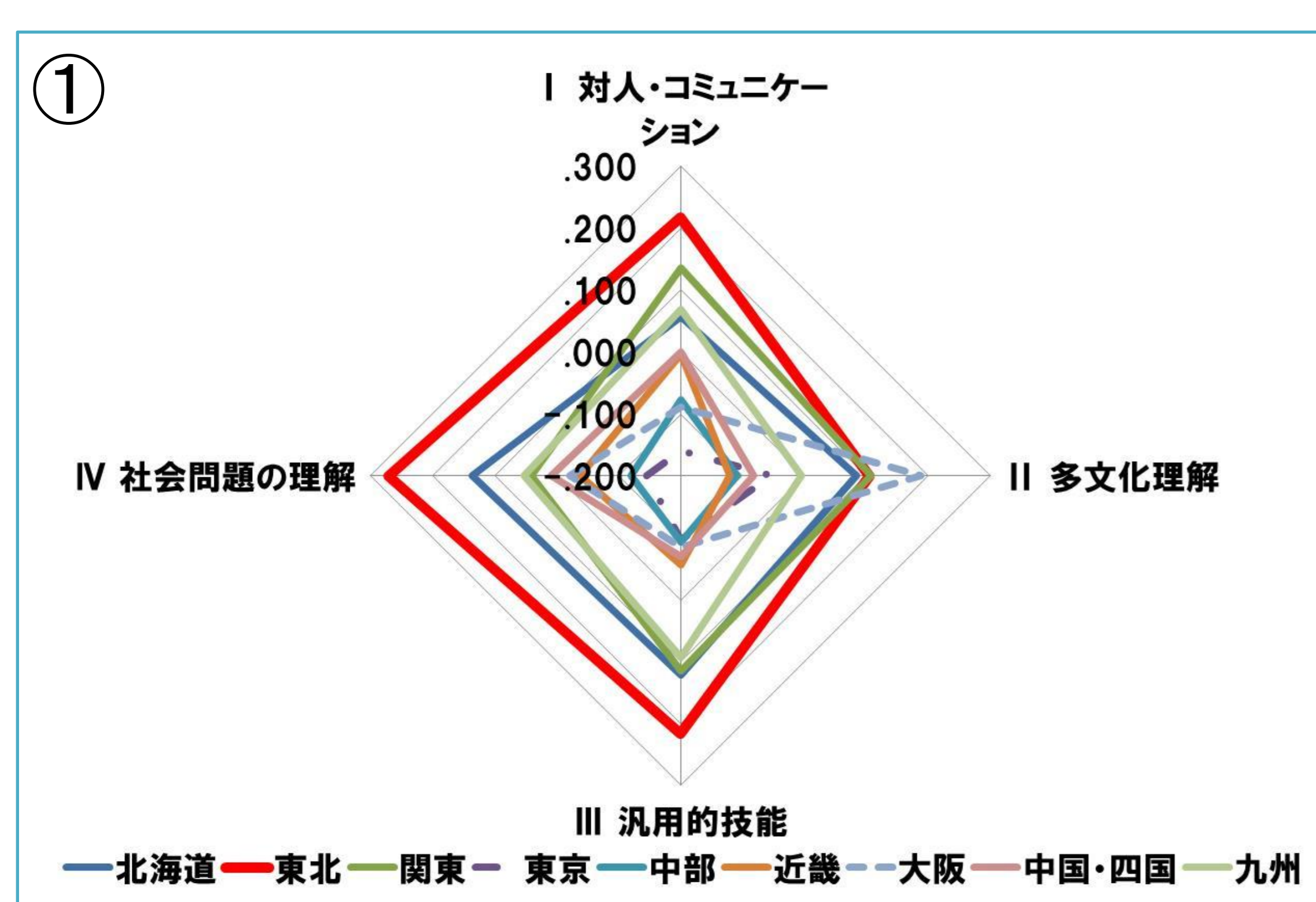
③ [地域間比較] [東北]>>><他地域>
「短大の魅力」「就職・資格志向」「他者からの進学推薦」

④ [X短大ベンチマーク] 『X短大』>>><全国>,『東北』
「就職・資格志向」
※「他者からの進学推薦」は『B短大』<『東北』

Q21-Q31.満足度(5ヵ年) 地域間比較とベンチマーク比較例

⑤ [地域間比較] [東北]>>><他地域>
概ね満足度が高い

⑥ [B短大ベンチマーク] 『B短大』>>><全国>,『東北』
「短大教育の質」「短大の雰囲気」
※「学生生活支援」「教育環境」は『B短大』<『東北』



考察:

- 1) 学生層に地域差
- 2) 全国平均と地域平均の差
- 3) 地域によって異なる短大に対する需要(地方の重要性大)

求められる短期高等教育の再定義と「地域」という視点